

Interview ピアニスト尾城杏奈さんが語る ヤマハ「C3X espresso」の魅力

ヤマハプレミアムピアノ「SXシリーズ」の開発を通して培った最新の技術やノウハウを、グランドピアノ「C3X」に応用し、さらに緻密な仕上げ作業が施され完成した新モデル「C3X espresso」。演奏者が思い描く表現に存分に応える、その高い表現力の秘密に迫るとともに、2020年に第44回ピティナ・ピアノコンペティションで特級グランプリを受賞したピアニスト尾城杏奈さんに試弾してもらい、その魅力を伺った。

第44回ピティナ・ピアノコンペティション特級グランプリおよび文部科学大臣賞、スタインウェイ賞受賞。全日本学生音楽コンクールにて、小学校の部東京大会第1位、中学校の部全国大会第1位、併せて野村賞、井口愛子賞、音楽奨励賞を受賞。マルタ国際ピアノコンクールJapan Piano Open第2位。これまでに、トルン交響楽団（ポーランド）、藝大フィルハーモニー管弦楽団、東京交響楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団と共演。大学在学中に、藝大クラヴィーア賞、卒業式時にアカンサス音楽賞、同声会賞、藝大クラヴィーア賞を受賞。東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て東京藝術大学を卒業。現在同大学大学院修士課程2年に在学中。東誠三氏、日比谷友妃子氏に師事。

取材・文：神田朝子(音楽ライター) 撮影場所：ヤマハ銀座店

SXシリーズの技術を結集！ より奥深い表現力を探求したC3X espresso

このたびヤマハから発売されたグランドピアノの新製品「C3X espresso（エスプレッシーヴォ）」。「音楽用語の「エスプレッシーヴォ（表情豊かに）」の名の通り、音色や音量を演奏者のイメージどおりに変化させられることを目指して開発されたモデルである。実はその魅力を語るうえで欠かせないのがヤマハプレミアムピアノ「SXシリーズ」。まずはこのシリーズから、紐解いていこう。

「SXシリーズ」は、世界のコンサートホールやコンクールの公式ピアノに採用されているヤマハコンサートグランドピアノのフラッグシップモデル「CFX」を頂点とした「CFシリーズ」に次ぐラインアップである。音色の決め手となるハンマーは、全てヤマハの自社工場内で製作されたものを搭載。その部材となるフルトメーカールとも緊密に協力し合い、2年以上の月日をかけて20回以上の試作を繰り返して、SXシリーズ専用のハンマーが完成した。この弾力性に優れたハンマーは、音量・音色の変化幅が非常に広く、演奏者のさまざまなタッチに反応して多彩な演奏を奏でることができ、さらに、木材を長年弾き込まれた楽器のように振動しやすくする、ヤマハ独自の特許技術「A.R.E. (Acoustic Resonance Enhancement)」を採用。「特許制作室」と呼ばれる、プレミアムピアノだけを扱うピアノ工房で最終的な「音づくり」を行って、「楽器」としての生命が吹き込まれる。

新モデル「C3X espresso」は、そのSXのハンマーを採用し、かつC3X espressoの本体でそのポテンシャルが最大限に発揮されるよう綿密に整音作業が施されている。それにより美しく響く繊細なピアノニッシモや、色彩感のある力強いフォルティッシモなど、演奏者の弾き方に敏感に反応して音色や音量を多彩に変化させることができ、より情緒的な演奏表現を実現している。C3Xシリーズを超えて、SXシリーズに次ぐ位置付けでありながら、アフターダブルな価格である点も特長のひとつといえるだろう。

C3X espresso

02 尾城杏奈さんが語るC3X espressoの魅力

第44回ピティナ・ピアノコンペティションにて特級グランプリおよび文部科学大臣賞、スタインウェイ賞を受賞。現在、東京藝術大学大学院修士課程2年に在学中の尾城杏奈さん。新鋭のピアニストである彼女が、「SX」の「C3X espresso」の2台を試弾。近い特徴を持つ両ピアノを弾き比べたうえで、変化に富んだ表情豊かな演奏表現を求める幅広いユーザーの思いに応える新モデルの魅力語っていただいた。

——「C3X espresso」の第一印象を聞かせてください。

弾いていて心地よいです。細かな動きや連打も弾きやすく、安定したバランス、幅広い強弱で楽しく演奏できます。練習するときも弾き心地がよくないと集中力を高められないので、弾き疲れしない点も嬉しいですね。繊細なペダリングもスムーズで「ずっと弾いていたい」と思わせてくれます。

す。また、細かいタッチの違いを素直に繊細な音で表現してくれます。「もっ」という音色にしたい、「もっ」とニュアンスを付けたい」といった思いをピアノが受け取って引き出してくれ、またそのリアクションを聴いて、さらに違いを追求しなくなる……という表現意欲が増してくる楽器だと思っています。それから譜面台の両サイドに音が抜ける穴が開いた特徴あるデザインの効果もあり、音が減衰していくところまで耳で追いややすいので、練習の時から意識的に耳を使って演奏できるのではないのでしょうか。よい意味で減衰が緩やかだと感じました。演奏中は皆自分の音を聴いているとは思いますが、音を鳴らした後の響きまでを意識的に聴くことで、きつと音楽が変わっていくと思います。倍音の響きもとてもよいです。

——タッチや音色について、演奏してみても感じた特色はありますか。

タッチはやはりSXシリーズに似ていますね。私にとって練習に使うピアノについては、鍵盤の感触が重要な点のひとつで、大事なポイントです。

低音は分厚く温かい音、高音は弱音も響きがとても美しく、音色の変化がつけやすいです。クリアでありながら繊細で柔らかな音など、

多彩さが魅力です。また、弱音の音色にも繊細に反応してくれるので、弱音の種類を増やしていくのに効果的な練習ができると思います。そしてそれによって、より理想的な演奏につながるのではないのでしょうか。

——エスプレッシーヴォ（表情豊かに）という名を冠したピアノですが、この楽語が記されているとき、尾城さん自身はどんな点を意識しますか。

先生にもよくアドバイスをいただくのですが、人の声で歌っているような表現を意識します。その声がどんな声なのか、女性かソプラノか……。そんな細かい違いを人間的に表現できるのも、このピアノの魅力です。

大学ではロシアものに集中し、ショパンも多く演奏。最近ではラヴェルやメシアンといったフランス作品への興味も高まっているとお聞きしました。試弾の際はショパンの《前奏曲第15番「雨だれ」》やリストの《バガニニによる大練習曲第3曲「ラ・カンパネラ」》といったロマン派や、ロシアものを演奏されていました。このピアノにはどのようなジャンルや曲が似合うと思いますか。

ベートーヴェンやモーツァルトなど古典もいいと思います。低音が奥深く、厚い音が出るのでロシアもの、また音色の変化がつけやすいのでフランスものも素敵です。以前に動画を撮影した時はドビュッシーを演奏しました。時代を超えて幅広いレパートリーが楽しめると思います。

——「C3X espresso」はどんな人におすすめでしょうか。

表現力を磨きたい上級者だけでなく、レッスンをスタートしたばかりの人にも適していると思います。



演奏の喜びを感じさせる素晴らしいピアノです

尾城杏奈さんの動画がご覧いただけます



コンサート動画はこちら



C3X espressoの魅力を知る

ヤマハ C3X espresso

3,630,000円（税込）

お問い合わせ先

株式会社ヤマハミュージックジャパン

ピアノご相談窓口

Tel：0570-003-808

